

# SAKASO

「さかそう」



特集 先生に聞いてみよう  
母と子の安全のために  
できること。



2021.2 Vol.46

おしらせ

## 地域医療連携課 -私たちが地域を支えます-

私たち「地域医療連携課」は、「思いやりをもって、地域をささえ  
る相談窓口」をスローガンに掲  
げ、坂総合病院と地域の皆さま  
をつなぐ仕事をしています。当  
院についてわからないことやご  
自身の治療・療養について困った  
ことはもちろん、小さな悩みや  
不安も気軽にこのメンバーへご  
相談ください。

※詳細はP.6の「職場紹介」をご覧  
ください。



〈写真左から〉

佐藤 果奈、須田 里歩、斎藤 なぎさ、伊藤 恵、鈴木 大之、渡部 勇太

## 診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただき  
ご確認をお願いいたします。

コールセンター 022-361-8288

- 平日 8:30~16:30(小児科のみ8:00~)
- 土曜 8:30~11:30(小児科のみ8:00~)

※日曜・祝祭日、年末年始(12/30~翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

- ◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
- ◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号  
(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院  <https://www.m-kousei.com/saka/>



電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は無料です。  
第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

## 表紙について

「幼い頃から漫画が大好き」と話す佐藤先生。  
特に、とある医療漫画は「教科書のようなこと  
も描かれている」といい、スタッフや患者さんに  
おすすめしているそうです。

- 表紙撮影／坂総合病院

SAKASO  
坂総合病院 広報誌[さかそう]  
2021年2月1日発行

S 公益財団法人宮城厚生協会  
坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5 <https://www.m-kousei.com/saka/>  
【広報誌に関するお問い合わせ】Tel 022-365-5175(代)



毎回特集内容を変え、  
病気や病院のあれこれを発信。

今回は、「産婦人科の取組み」を  
ご紹介します

塩釜市を中心に地域の  
医療を支える坂総合病院。  
適切な治療と高度な技術で  
人々を支えています。  
今日は、坂総合病院の  
産婦人科だからできること、  
そしてその取組みについて  
佐藤孝洋先生に聞きました。

特集

先生に  
聞いてみよう

# 母と子の 安全のために できること。



佐藤 孝洋 (さとう たかひろ)

宮城県出身。東北大学医学部卒業後、坂総合病院へ入職。動物が大好きで獣医を目指していた幼少期を経て、高校生の時に医師になることを決意。研修医時代に自然分娩に立ち合ったことで、「こんなに素敵なかな場面があるのか」と産婦人科医を目指すようになる。

—お母さんと赤ちゃんに、安全で安心な医療を提供するために—

## 産婦人科のネットワークで 力強く出産をサポート

総合病院の産婦人科の強みは、他の科と連携しながら安全で安心な医療を提供できること。妊娠

婦さんは「食事がおいしい」「アメニティが充実している」「スタッフが優しい」など、それぞれに産婦人科を選ぶ基準や求めるポイントはたくさんあるかと思いますが、医師として「安全である」ということは決して譲れません。そして今では院内だけでなく、地域、さらには宮城県内にある産婦人科との連携も強化するようになります。例え、当院での出産後に出血が止まらず輸血が必要になった場合、仙台にあり、東北大学病院に救急搬送ができる体制を整え、すぐに適切な処置ができるようになっています。

宮城県内の産婦人科同士、互いに医療をサポートし合っているのです。宮城で受け入れる病院がなかった時には、山形や東京の病院まで搬送したこともあります。それもすべて、赤ちゃんとお母さんの命を守るために。お産に関

## 命を守るために 最短の時間で最善を尽くす

わる私たちは、総合病院やクリニック、開業医といった立場を越えたひとつチームなのです。

赤ちゃんとお母さんを守るためにには、産婦人科スタッフ一人ひとりのレベルアップも欠かせません。そのため私たちが日々行っているのが「シミュレーション教育」です。分娩は、お母さんも赤ちゃんもまさに命がけ。特に赤ちゃんはお母さんのお腹の中から外の世界に適応するため自ら肺に酸素を取り入れますが、その約1割は医師や助産師の処置が必要になるという現実があります。そんな中、「赤ちゃんが仮死状態で生まれてきた場合はどうすればいいか」「最短の時間で超緊急帝王切開を行う時にはどうしたらいいか」という問題に対してガイドラインに基づいたテキストや人形を使ったシミュレーションを重ね、どんな状況にも素早い対応ができるようにしているのです。緊急事態はいつ起きるか予測できません。どの時

間帯なのか、外来の患者さんか病棟の患者さんなのか、対応できるスタッフの人数も異なります。しかし、処置の素早さや対応にばらつきがでてしまつてはいけません。そのため私たちは、赤ちゃんとお母さんの命を守る行動を示したフローチャートを作成しています。スタッフの誰が見ても次の一歩がすぐにわかるので、処置にかける時間が短くなる、という訳です。もちろんこのフローチャートは想定と実践と改善を繰り返して常にアップデートされていきます。まだまだ改善が必要な点もありますが、これから課題としてスタッフ全員と共有しながら進めているところです。

## 母と子の「これから」を スタッフ全員で支え抜く

ここ十数年で赤ちゃんの心肺蘇生法が周知され、多くの命が救われきました。そして現在では、当院の産婦人科をはじめ多くの産科医が母体の蘇生法の学習に入っています。出産の際、母体に命の危険が及ぶ 자체は稀



## #4 冬はノロウイルスにも注意しよう!

高山 紗子 (たかやま あやこ) / 感染制御実践看護師

Q

毎年冬になると「ノロウイルス感染症」のニュースを多く目にします。感染予防の方法を教えてください!



A

ノロウイルスによる感染性胃腸炎の主な原因は、ノロウイルスを保有する人の手指で汚染した食品、また感染者の排泄物・嘔吐物からの二次感染です。そのため予防に大切なのは石鹼でしっかり手を洗うこと。体調不良時に貝類の生食を避けることも有効です。感染した場合は3日ほどで回復しますが、その後1週間ほどは便にウイルスが含まれることにも注意しましょう。



第18回  
みやぎ東部健康福祉友の会

### 栄養手帖 ■ -食養室だより-

## 脂質の役割を知ろう!



大切な栄養素だけど敬遠されがちな「脂質」。  
適量を守れば、私たちの体に良い働きをしてくれます。

### 脂質の主な働き

- エネルギー源になる
- ビタミンの吸収を高める
- 体温を維持する
- 細胞膜やホルモンをつくる
- 脳の働きを良くする
- 血液の流れを良くする

### こんな脂質の摂取はNG!

- 間食や夜食にスナック菓子やカップ麺をよく食べる
- どんな料理にもマヨネーズやドレッシングをかける
- ファーストフードをよく食べる
- ★油は少量でも高カロリー。摂りすぎは肥満や動脈硬化の原因に!

### 3種類の油を バランスよく摂取しよう!

油には、大豆や菜種などからできた「植物性油」とラードやバターなどの「動物性油」、そして魚介に含まれる「魚油」の3種があります。魚油にはDHAやEPAなど体に良い成分が含まれるため積極的に摂取しましょう。

植物性油

魚油

動物性油

坂総合病院と協力し、地域の人々の健康福祉増進を目的に活動する「みやぎ東部健康福祉友の会」。佐藤さんが入会したのは22年前。その翌年には役員となり、事務局長や副会長などを経て現在は会長を務めています。催し事でのあいさつや活動のサポートを中心に、県内にいくつかある友の会を東ねるのが仕事です。「坂総合病院で毎年行う『健康まり』が成功した時や署名活動で成果を出せると、達成感を感じますね。様々な背景を持つ会員さんの意見をまとめる時にも手応えを感じます」。最近は会員の高齢化やコロナ禍の影響による会員数の減少に頭を悩ませる日々…。しかし、佐藤さんは今後の展望を明るく語ります。「で生きることを見つけて、積極的に前に進む工夫をしながら活動をしていきたいですね。それが地域のため、病院のためになるはずですから」

次号は

畠山 日香  
(鴻池メディカル株式会社  
滅菌室責任者)



毎年秋に行われる「健康まり」。がん相談窓口や血管・肌年齢を測定するブースには例年多くの人が訪れた(写真は2019年開催時のもの)



佐藤 司 (さとう つかさ)  
みやぎ東部健康福祉友の会 会長

伊藤 恵 (いとう けい)  
事務部長

地域医療連携課は若いスタッフを中心とした、事務6名からなる部署です。開業医や他の病院、介護施設、介護事業所、行政機関である保健所などと幅広くつながりながら、患者さんが他の医療機関から診察のために来院する場合、また患者さんが当院から他の医療機関へ診察を依頼する場合の窓口になっています。言い換

えれば、地域医療連携課は患者さんと病院をつなぐ「架け橋的な存在」。各診療科の診察、各種検査の依頼や予約をするのも私たちの仕事です。



患者さんからは、坂総合病院に聞きたいこと、困ったことなどいろいろな声が私たちに寄せられます。そのためスタッフ全員が共通して意識しているのが「地域の相談窓口になろう」ということ。病院を訪れる人はただでさえ病気のことでも不安を感じているはずです。だからこそ初めて当院を利用する患者さんが病院で迷うことがないようしっかりと説明をすることを心がけています。また開業医の皆さんからの各種依頼には早急に対応することなども、私たちが大切にしていることのひとつです。

今後も坂総合病院が地域の皆さんだけでなく開業医の皆さんからも利用しやすい病院だと思ってもらえるよう、仕事に取り組んでいきたいと思います。



院長  
佐藤 亮 先生  
(さとう りょう)



小児科  
うりぼうキッズクリニック

〒983-0828  
仙台市宮城野区岩切分台3-1-5  
TEL 022-355-4515  
URL <https://uribo-kids.jp>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30 - 12:00	○	○	/	○	○	/	○
14:00 - 15:30	▲	■	/	▲	■	/	○
15:30 - 17:30	○	○	/	○	○	/	○

○一般診療・予防接種  
月・火・木・金曜／8:30～12:00、15:30～18:00  
日曜／8:30～12:00、14:00～18:00  
▲乳幼児健診 ■発達支援外来  
※受付は診療終了の15分前まで。  
予防接種受付は午前は11:15、午後は17:15まで。



## 連携医のご紹介 うりぼうキッズクリニック [ 小児科 ]

### 「子どもなんでも相談所」を目指して

「うりぼうキッズクリニック」は2020年10月に開業したばかり。クリニック名は私が亥年生まれであることが由来です。理念に『地域の子どもなんでも相談所』を掲げ、「子どものことで迷つたら、まずはあの先生に相談しよう」と思ってもらえる小児科を目指しています。

当院の特徴は「日曜診療」「発達相談」「いつでもワクチン」の3つ。急病の際に対応できる小児科であることが地域貢献になると考え、さらに発達相談については小児神経専門医としての経験を活かしてクリニックでも行える発達

外來を摸索していく所存です。また、院内の待合室・診察室は感染症／非感染症ごとに完全に分離できる設計としました。院内感染のリスクを極力減らすことで特定の曜日や時間帯だけなく、思い立つらいつでもワクチンを接種できるよう配慮しています。

まだまだ試行錯誤の日々ですが、坂総合病院と連携を取りながら長く愛される小児科を築いていきたいと思っています。地域から宮城県の小児医療に少しでも貢献していくよう、猪突猛進、突き進んでいきたいです！

開業おめでとうございます。「地域の子どもなんでも相談所」の理念、素晴らしいですね。かかりやすさを追求した診療スタイルは、これから子育てを行う方々にとって心強い存在だと思います。当院も地域医療の充実を旗印に頑張っていますので、ぜひ良い連携を取っていただきたいです。よろしくお願いします。

### 坂総合病院から

